

## 令和4年度あきる野市スポーツ推進審議会（第3回）議事要旨

- 開催日時 令和4年10月14日（金）午後7時～9時
- 開催場所 あきる野市役所 3階 301会議室
- 出席者 江川委員、吉田委員、町田委員、金網委員、菱田委員、伊東委員、高岸委員、森本(幸)委員、森本(久)委員
- 事務局 佐藤生涯学習担当部長、高橋スポーツ推進課長、小林スポーツ推進係長、スポーツ推進係、寺島

1 開 会 高橋スポーツ推進課長

2 挨拶 江川会長

3 議 題

(1) スポーツ推進計画（素案）について

(会長) それでは早速、議事の1番にいきます。

第2次あきる野市スポーツ推進計画（素案）についてです。事務局より、ご説明お願いいたします。

(事務局) それでは、配布資料についてご説明させていただきます。資料1、令和3年度の実績検証ヒアリングシート及び資料2のヒアリングシートの検証結果の比較をご覧ください。第1回スポーツ推進審議会の議題としても、取り上げましたが、現行計画における令和2年度までの各事業の取り組み状況について検証し、評価を行いました。令和3年度分の評価につきましては、5月に報告ができておりませんでしたので、改めて取り組み状況シートについて配布させていただきました。また、令和3年度の検証結果に基づきまして、資料2のヒアリングシート検証結果の比較において令和3年度分の評価を追記したものになります。現計画策定後の平成26年度から令和3年度までの検証に基づきまして、便宜的に、点数によりそれぞれの取り組みにおける評価をさせていただきます。評価の点数につきましては、評価基準Aを5点。BまたはB'を2点。Cまたは、C'及び、ハイフンにつきましては、0点として、目標ごとに平均値を計算し、検証の参考となるよう表示させていただきました。

続きまして、資料3、「第5章、計画の推進に向けて」をご覧ください。現行計画の第5章、推進体制等を抜粋したものになります。2枚目につきましては、次期計画における推進体制（案）について、今回の資料送付後に改めて修正させていただいたものになります。計画をより効率的、効果的に推進していくための評価体制等について、事前に送付させていただいております。素案と併せて、ご意見等いただきたいと考えております。

次に、資料4をご覧ください。資料4でございますが、前回の会議終了後に計画の素案に対して、委員の皆様よりいただきましたご意見等について、まとめたものになります。この回答内容につきましては、今回の素案に盛り込ませていただいております。

次に、資料5、コラム(案)をご覧ください。コラム(案)につきましては、事前に配布しております、第2次スポーツ推進計画(素案)の中で使用されている用語などについて、前回いただきましたご意見で、わかりづらい等のご意見をいただいたことから、関連するページに掲載してみてもどうかという提案になります。

次に、事前に配布しております、第2次スポーツ推進計画(素案)をご覧ください。9月20日の第2回スポーツ推進審議会において、次期計画(素案)に対して、皆様からのご意見、ご要望等をいただきまして、改めて素案について修正させていただきました。修正した箇所につきましては、文言を朱書きで表示しております。修正内容につきましては、別途、主な修正項目一覧に該当ページごとに修正項目をまとめさせていただきますので、再度、ご確認をお願いしたいと思います。

第2次スポーツ推進計画(素案)の概要についての説明は以上となります。

(会長) 資料の1から5と、事前配布の素案についてのご説明をいただきました。それぞれの資料の確認、素案についてのご意見をいただきたいと思います。

(委員) いただいた資料を一通り最初から、最後まで、読ませていただきました。この表現はどうかと思ったところが1点、10ページですけど、図表2-2というのが一番下の四角で囲ったところですね。その(1)既存のスポーツ施設の整備充実のところ、主な取り組みという一番右側の四角の中で、テニスコートの人工芝生化と書いてあるんですけど、人工芝化ではないかなと。人工芝の事を、人工芝生というのは聞いたことがない。その辺が、どうなのだろうなと思います。さらに、36ページですね。ここは逆に文言の表現の解釈というところですけど、真ん中やや上の四角の囲みですね。図表2-36となっているところで、「ささえる」という項目。分野の中のする、みる、ささえるの「ささえる」のところの右側の文言ですけど、スポーツをささえる活動への低い参加率、参加する機会、きっかけづくりの不足、ここまではわかりますが、「スポーツ団体・会員数の減少」という文言が、「ささえる」のところに、書いてあるのは、少し違和感を感じた。これはする人の減少の方なのではないかなと思ったんですけど。これは問題提起です。読んでいただいて違和感を感じられるか、感じられないかというところです。

(会長) 芝生とささえるは、事務局にご確認いただき、適切に対応いただくということで。実はスポーツ庁が、この辺あやふやなんです。主旨としては、スポーツ団体の1競技1団体という時代から、総合型を含めて、色々なことを世代をまたいでやるというふうになってきているので、そういう点では、1自治体の中の団体数とか1自治体の中の会員数という概念ではなくて、全体としてなくなってくる、少子化の話だと思うんです。その課題整理がつかなくて、急に「ささえる」と出されてしまうと、指導者がいなくなるとか、また別のことを考えてしまう。市民の方が誤解を生まないように、調べていただければと思います。

(委員) 内容のことではないが、見ていた中で、7ページのところの真ん中、「みんなでつくろう」には、カッコがあって、その終わりのカッコが、「健康なまちを目指して～」のところの終わりのカッコが入るのかな。(4)下から3行目。「みんなでつくろう」のかぎカッコ、始まりに対応するかぎカッコ、終わりが見つからない。だから、目指して～のところですよ。また、同じような感じでいくつかあったんですけど。16ページのところで、n＝というのは、アンケートをとった母数になるんですか。

(事務局) そうですね。回答の母数ということです。

(委員) 16ページは、48人なんですね。他は、何百とかに対して少ないかなと。

(事務局) そうですね。回答をいただいてやっていないという方が48人。

- (会長) やっていない人が少ないのではなくて、やっていない人の中で、理由を回答して下さった方が、この人数ということです。
- (委員) 20 ページの方で、表の 2-17 のところの下の方、数字が%の数字が書いてあるところが、見づらくなっているのと、一番下の、その他の下の表記が、無いかな。あと、同じようなところで、22 ページも表 2-21 の一番下のところが「%」が、かぶってしまっている。23 ページの表の中の、「試合の審判・応援、地域等のスポーツチームの…」というのは。あと、38 ページで、真ん中より下、「みんなでつくろう」のところですが、二重カッコの次に一つカッコが入って、終わりは、二重カッコで終わっているんで、二重カッコの次のカッコはいらない。41 ページのところ、第 4 章の赤い字で書いてある NPO 法人で始まるところが、1 個あいているんですけど、前の文の続きなので、あけなくてもいいかな。43 ページのところ、「学校におけるスポーツの充実と体力の向上」と「運動部活動の地域移行」の二つの概要の文章の頭があいていない。このフォントの方が読みやすいと感じた。以前、もらった資料は明朝体ですか。実際にはどっちになるんですか。
- (事務局) そうですね、前回もそういう形にしていますので、見やすいフォントにしたいと思います。
- (会長) 表記とかブレとか統一というのは、事務的に今、ご指摘いただいた部分は、改善・修正していただいて、できれば内容的な部分で、ご指摘があれば、いつでも言っただければと思います。今 2 つのご指摘は、大事なので、全部読んでいただいたので、見えたので、ありがとうございます。
- (委員) もうひとつ、今、いただいた資料 5 コラム(案)ですが、私的には、嬉しいなと思います。個人的にもあった方がいいなと思います。ぜひ採用していただければ。
- (会長) コラム(案)ですので、説明の表現、内容そのもの、それから、もう少し取上げていかなければいけない項目などがあれば、もちろんご意見いただければと思いますし、それから現行計画にもアダプテッドスポーツとか、障がい者のこととか、一応コラムにはなっていないですけど、新しい言葉というのは載せてあるのですが、やはりコラムで囲ってあると、わかりやすいでしょうし、まとまっていれば、次、見る時にコラムにあるということがわかりますので、今のご意見を採用していければと思います。
- (委員) 素案の 50 ページなんですけど、基本目標 4 の「ア」の赤字のところ。前回、追記していただいて、具体的な競技名とかもすごく良いと思ったんですけど、もう一歩、踏み込んでも良いのかなと思っていて、他の目標とかでは言っているんですけど、イベントの実施を検討するとか。イベントを開催するという目標も幾つかでているので、この分野に関しても踏み込んで、そこまでやってはどうかなという提案です。せっかく次の計画もありますので、その中で、特に私は、マラソン大会を実施してもらえないかなと思っていて、いろんな大会に出るんですけど、結構すぐに埋まったり、あと大体行き尽くしてきていて、行くところがないとかあるので、開催するとみんなが来るのではないかな。そうすると、このあきる野市の特性を生かした、アウトドアスポーツを推進し、更に多くの人への紹介というところに、繋がっていくのかなというがあるので。是非そういう、一例でマラソンと、言いましたけれどもそういうイベントを開催するという文言を入れていただくと私としては、嬉しいと思いました。
- (会長) 今の件で補足ですけど、資料 2 をご覧ください。市の大きなイベントがコロナで、のきなみ予定はしたけどできなかったというのはあるんですけど、資料 2 の裏面なんですけど、今ご指摘いただいたアウトドアスポーツの推進ということで、競技を具体的に提示するということは、もちろん必要なんですけど、さらに踏み込んで、イベン

トと絡めての記載ということでしたので、資料2の裏面に現行の「基本目標4 市の特性を生かしたスポーツ推進」による、まちづくりというところが、実は、事務局の英断で数値化をしたところ、最も弱いということでしたので、今の委員のご意見をうまく重ねると、確かにてこ入れするという点については、それなりに理由があるというふうに、数字上はなります。ですから、何かマラソン大会が好きだからやりますと、そういうことではなくて、きちんと第1期の計画の結果を踏まえて、新しい種目アウトドアスポーツという例示と、さらに具体的なイベントの例示をするか、どうかということだと思ふので。

(委員) 今、関連しているんだと思うんですけども。前々回でのアンケートの中で、市民全体のスポーツの企画をして欲しいというのが80%というのがありましたよね。それが今回の「基本目標4」の中のどれに想定されているのか確認ですが、その前段の話では、数年前まで、あきる野市の特性を生かした、市民スポーツレクリエーション大会というのをやっていたのが、色々な事情で中止になったという話だったんですが、それに関連するような質問を入れてもらったところ、80%近くの人が、何かの形でやって欲しいというアンケート結果が出たというのは、そういうものは、どこどころに反映していけばいいのかわかりませんが、何らかの形で、考えていく時期にきているのではないのかなと思います。

(委員) 資料5のコラムに総合型地域スポーツクラブ等と説明を書いているんですけど、地域スポーツのハブ拠点という言葉、それをコラムにも入れてもらいたい。そうすると関連性もでてくるのかということと、あとはあきる野市は、総合型地域スポーツクラブ各団体が自主的にやっていますが、市の支援を受けながらやっているところは、特徴的なところではあるんですけど、市から支援を受けているクラブです、というのが一文あると安心できる。一文、市の支援とか協力とか入れてもらえると変わってくるのかなと思います。それと、先日、「スポーツの日スポーツフェスティバル」がありました。41ページ。スポーツ大会やイベントの開催ということで、その中でスポーツに親しみ健康な心身を培う、スポーツの日を記念し、というイベントがあったんですけど、実際に、どのくらいの人に周知されていたのかなと。実際、うちのクラブで1事業やったんですけど、市から出ているものに対しての周知がまったくなかった。これをご覧になられた方はいますか。スポーツの日に行なったもので、「スポーツの日スポーツフェスティバル」施設開放をして、やったんですけど、山田グラウンドで事務所を貸してもらっているんですけど、チラシが埋もれていて、気づかなかった。今回、こういうチラシがなかった、見ていなかったと思って、報告書を書いた後に、山積みになってあり、周知されていなかったという事と、実際、管理人さんも当日が、「スポーツの日スポーツフェスティバル」をわかっていなかった。今日、人多いねぐらいで。グラウンドは、その日利用がなかった。なぜ利用がなかったかというと、事前にこの日は、全部、市の方でスポーツフェスティバル用におさえていて、一般の人たちが、いつものように予約がとれなかった。うちのクラブも「スポーツの日フェスティバル」としての利用があるので、通常のコース活動は中止した。ただ、実際グラウンドは一日使える状態で、「スポーツの日スポーツフェスティバル」の日なのに、通常の利用はできなかった。スポーツの日だから、スポーツができない環境に陥ってしまったクラブがおそらくいっぱいある。ファインプラザも含めてですけど、売り上げができない状況にあつて。このイベントはスポレクのかわりになる、市民を巻き込んでいけるイベントになるのではないかな。もっと盛り上げていける様な環境を作ってあげると、どこかのタイミングで、施設予約を、一般開放して、通常のリ

用を可能にしてもらえると、よかったんじゃないのかな。来年以降もあると思うので、一般クラブとしての希望でもあるんですけど。スポーツの日だから、スポーツが出来ないという、状況に陥ってしまった。要は矛盾している。やり方によっては、一大イベントになるんじゃないのかな、種目とか関係なく、様々なスポーツ団体が普段使っているグラウンドなどをうまく活用して、一般の人たちも、うまく誘い込めるイベントだと思うので。そういうこともうまく活用できないかなと、状況を確認していただけたらと思います。

(会長) こちらの思いをまず言いますと、資料1をご覧ください。今、話題になった委員ご指摘のスポーツイベントの件、アンケートから8割以上の反応があるということと、直近の令和4年10月10日の件について、「全ての市民がスポーツに親しみ楽しめる活動の推進」の(1)身近にスポーツを楽しむきっかけとして、今年は、10月10日にスポーツの日が巡ってきて、こういうことを経験した時に、④のスポーツイベントということが今話題でした。④のスポーツイベントの中に、令和3年度の評価はB'ということで、ABCは、先ほど事務局からご説明があった通り、Bというのは、部分的にできたということですが、「スポーツの日スポーツフェスティバル」という記載があり、令和4年も10月10日に実施する予定ということがあり、今のお話になっています。資料2の方も同じような項立てになっていますので、④が過去に、平成26年からA評価が令和元年まで続いていて、令和2年、令和3年とB'になっているということは、皆さんが見てとれると思うんですけども、今、委員ご指摘の、例えばチラシが埋もれてしまっているとか。それから、例えば、本来であれば、その日に活動ができたはずが、市のイベントのために、むしろ逆転していることとか。それから、そもそも市民がやりたいと思ってるんだけど、そのきっかけとして、このイベントがうまく機能していないということについては、今、共有できたと思いますので、イベントだけではないですけども、まずとっかかりに関して、年に1回の大きなイベントですし、これが、部分着手というよりは、やっぱり8万人全市民ということで考えたときには、A評価に戻っていくような、そういったことを、我々も考えていきたいと思しますので、そういう観点で、是非、スポーツ協会の事業もそうですし、それからアスポルト、五日市クラブも含めて総合型の力も必要ですし、それから、年1回のイベントという観点での、今回の経験を踏まえて、大きく3つありますけれども、それぞれの特性がありますから、それについて、また委員の皆さんから良いアイデアをいただければ、令和5年に向けていけるかなと思いますので、是非、継続して、反映していけたらと思います。

(事務局) チラシの方が埋もれてしまっていたという事につきましては、その辺の周知が徹底できていなかったというところで申し訳ありません。あと周知の方法といたしましては、広報で掲載しています。あとは、ホームページですね。こちらでも周知させていただいております。またですね、各連盟等に協力を仰いでおまして、実際そういったところで、何かイベント、事業をやってくださる団体を募集をさせていただいて、応募いただいた団体に、事業を展開していただいています。その他に、そういったイベントに参加するということではなく、気軽にきっかけとして、施設がいつでも1日どの時間でも使えるようにというところの狙いで、個人開放、無料開放というような構成で、現状イベントを実施していますけれども、今、ご指摘ありました点も踏まえまして、令和5年度以降どういう形が一番より多くの市民に参加いただけるのかというところを考えながら、少し検討させていただきたいと思っております。

(委員) 今の件、いろいろ課題もありますが、話であったと思うんですけども、それはそ

れとして反省しなければいけないですけど、私たちスポーツ協会としても、市のこのイベントに今、当日のやり方を仕切ったりですね、講師派遣したりという協力する一方で、新しく市民の人が、この日を機会に、スポーツを始めようとする非常に良い機会になったと思います。私も当日ずっとそれぞれの場所、全部まわりましたが、この企画のおかげで気楽に参加してみたよ、という方が非常に多かったんですね。だから、令和2年3年、B' というのは多分、競技団体によっては、コロナの関係で一部実施できなかったということがあるんでしょうけれども、主に屋内のスポーツでは非常に良いイベントだったというふうに思います。是非これはさらに、課題を、少し反省しながらでも、是非続けていって欲しいなというふうに思っています。スポーツ協会としても、我々としても新しい会員を獲得する非常に良い機会でもありますので、是非続けていければと思います。

(会長)　　そういう点では、市民が始めるきっかけとして、イベントという入口から入っていくというケースを考えた時に、素案の10ページがそうなんですが、第1次計画で、イベントがあったおかげでできたとか続けるという側面と、今年のイベントがきっかけになって、これから始める。2次計画では、その人たちが続けるということをやったっていかねばいけない。そうすると今、図表2-1というところには、過去の整理としては、総合型地域スポーツクラブと、スポーツ協会が、教室をやったというふうになる。ここの総括が実は違って、市のこれまでの伝統というか、良さというか、そこをちゃんと総括するうえで言えば、スポレクも含めて、そういうイベントがあつて、人材がなかなか動員できなくなるとか、推進委員が、世代交代しにくくなる等、いろいろな事情はあるけれどもやっていた時期も踏まえて、1期があつて、2期にどうするのかということ、総括して次を考える。そうすると、第1の進捗という観点でいくと、たまたまイベントの話だけで話が進んでいますけれども、結構多くの人に関心を持ってくださるものなので、そういう点でいったときに、各種スポーツ教室というのは、小さいですよ。ただミニテニスみたいになると、その種目だけになってしまうし、それからニュースポーツと提案すると、オーソドックスなスポーツをずっとやっている人からすると、新しいものがわからないとかとなってしまうので、我々のこの審議会の計画というのは、より多くの人に、いろんな種類があつていいと、これから、うたおうとしていますから、第1次の主な取り組みはそうなんですけれども。過去の歴史があつて、1次の時期があつて、今度どうするかという話になってくるので、1次のときに対象外とされていた未成年の人たちが、今、第2期で成人になって対象になってきました。そういう観点でも、新しいダンスみたいなものは学校で取り入れられてきて、街中でという話がこの前、ルピアの前でとか話が出ましたよね。そういうことも踏まえての広いスポーツということをいよいよこういうところにしっかり入れて、今までのスポレクの「スポ」ではないかもしれないんだけど、もちろん柔道だとか、歴史的なものは、続くんですけども。この素案の中にいろいろな宝が眠っていることを皆さん方は、ご認識いただけていると思いますので、そういう観点での、今回、資料1からの資料2の星取表で点数のところをご覧いただいて、もし、抜けがあるといけないので、こういう視点があつたほうがいいのではないかなというのは、今イベントだけで、これだけのボリュームでしたので、おそらくそれぞれの委員の日頃の活動とか事業関連で、お気づきがあれば、是非一度それは、意見を出していただいて、どんな些細なことでも計画に反映できれば、次の数年間は、ここに残りますので。逆に今ここで意見が出ないと形に残せませんので、わかりづらいまとか、記載が漏れたままとかということ、是非避けたいと思っておりますので、お気

づきの際には、是非、事務局にご一報いただければと。若い世代が、こういう計画にうまくのと良いんで。なかなか10月10日にスポーツの日は、回って来づらくなったんですよ。

(委員) 10月10日の設置そのものが、変わってきているんですよ。オリンピックをきっかけに設定した。その時には、必ず何かスポーツをするというイメージだった。今は、そうじゃなくて、ズレてきていて。祝日の在り方とかも国全体が、いろいろ変わるので、わかりにくくなりましたよね。スポーツに特化して、もしやるとするとしたら、あきる野市の10月10日は、何とか全体的なイベントをやるみたいな形で周知すれば、それはそれで、根付いていくんでしょ。そうじゃないと、なかなか難しいですね。

(委員) 日にちとか、第何日曜日とか。

(会長) これだけスポーツに興味のある委員の皆さん方が、そういう思いであることは、多くの市民の方は、せっかく開放されていたり、チラシもあるのに、使えたのにとかっていうことも知らないまま、今年の10月10日を見逃している訳で。

(委員) スポーツフェスティバルですが、柔道連盟の柔道教室とスポーツ推進委員の体力測定を何年もやっています。確かに今、おっしゃったように、体育の日ということイメージでやったのが、国の移行で、第2月曜日がスポーツの日になったということで、3連休なんですよ。それを作するための計画で移した訳です。秋のちょうど良いこの3連休に1日これを開催しても、遊び好きは来ないでしょう。曜日設定からいって、どう考えても。そう考えたら、10月第1日曜日にやりますとか。あきる野市のスポーツの日を設定すれば、スポーツフェスティバルとして、予定するかもしれないけど。わざわざ3連休に、1日スポーツの日とするのは、厳しいものがあるのかなと思います。それと、体力測定の担当でスポーツの日に行った時の話で、真剣に考えてもらいたいですけど、高齢者の方と話をしました。どういうことかと言いますと、ここにあります体力測定の中で、項目がこう書いてありますけど、上体起こしという担当を以前からやっている。なぜかという、体力的に、グッと押さなければいけないので、もう十何年やっています。ある女性が、年齢83歳で、上体起こしを30秒間で、19回できたんです。普通、成年男子でそれくらいです。とんでもなくリズムがいいです。改めて、最後に普段何をやっているんですかと聞いてみたところ、ふだん毎日歩いていますと言っていました。さらに女性専用のカーブスに毎日行っているそうです。高齢者の筋肉トレーニングをどういうふうに考えていけないのか、たいていの方は、歩いていけばいいのではないかと思うが、歩いているだけでは、筋肉つきませんから。本来は、ウエイトトレーニングをしないとダメなんです。それで、2、3ヶ所、そういうトレーニングをやっています。となると、市にもそういう施設がある訳です。そうすると高齢者の方が行きやすいような、トレーニング室の利用を考えると、その成果をちゃんとあげると、高齢者の方が、トレーニングルームを使うのではないかと。とにかく高齢者を筋肉トレーニングさせるような呼びかけがあると、かなりの方が来るのではないかと、なぜなら、実感できるからです。83歳の方が上体起こしでガンガンくるような状態をカーブスでいろいろな機械を使って、体ができてくる。それをアピールしてあげると、市の施設、今、五日市ファインプラザ、秋川体育館だけで、うまく利用するだけでも、かなり高齢者は、来るのではないかと。高齢者ですから、若い人と一緒にガンガンできません。高齢者の時間帯を作ってあげないと。この日は、高齢者の日とか、決めてあげるだけで、かなり、筋トレに目が向き良いのかと。さらに、高齢者のために、整骨院と絡んでやっていきます。整骨院でやるのと、ジムで指導者がついてやるのと、全部違ってきます。そういうこと

をイメージしていただけると、ここの中の高齢者の健康づくりの中で、筋肉トレーニングの大切さが、文言で入ってくると良いのかなと思いました。

(委員) 今の話を聞いてまして、高齢者にとっては、すごく良いと思いました。でも、高齢者の人は、そこへ行く手段がないとなかなかやりたくても行かれない。バスもそんなに無いじゃないですか。市内循環で、ぐるぐる回っているバスでもあれば、皆さん行かれるけど。とにかく車を返したら出られないというのが、現実だと思う。だから、なかなか車を乗っていた人がやめて、行こうと思うとなかなかやりたいけど、出来ないというのが、現状だと耳に入ってきます。そういうのが、改善出来たら素晴らしいと思います。あのバスって、あきる野市にあるじゃないですか、必要な時間帯にないですよ、土日はお休みです。バスはあるけれど使えないというのを感じています。目的地に行くのに時間がかかり過ぎちゃいます。あと、「健康のつどい」も3年ぶりに開催させていただき、まだ集計はしていませんけれども、忘れないで足を運んでくださった方がいて、部屋の中を見ていただいて、何かを感じて健康づくりのきっかけを作ってくれたら良いと思っていましたけど。中にきて、この中で手足を動かすところがないの、という意見も聞いたんですね。前はあったよねと言われて、前はありましたけど、今回はすみませんと。やはり来ててもそういう参加していただけるのを入れなければいけないのかなというのは感じました。

(会長) 出来て良かったですよ。対面というか、集まることができて。

(委員) 地域いきいき元気づくりの事業は、今まで保健師さんが来て下さって、ウォーキングをして、集まっていたのですが、密になったらいけないということで、お部屋の中では出来なくて、でも今は、部屋の中でやっている。やはり2年間ありましたので、来られていた方が出て来れなくなっていて、それだけ体が弱ってしまった、歩いてそこまで行くのが大変なんだ、という方がいて、それもすごく感じていました。とにかくやりたいけどできない、その場所に行く事が出来ない、そこに繋がってきていると感じました。

(会長) 10日の日は、外から見ていたのだが、来年は、あるべき姿にもっていきいたいなと思っています。また、1日は都外に出張だったんですけど、高齢化率49.7%の自治体に呼ばれて行ったのですが、ずっとリーダーの方が地域で頑張っていたんですけど、コロナで、その方が急激に落ちてしまって、人と接点がなくなって、そこも足がないと、とても集まれない、公民館まで車でだいたい30分。それでも車で行ける人が多かったのに、ロックダウンで、公民館や集会場は、市の意向で、使ってはいけないとなってしまった。集まるチャンスが無くなってしまったんですね。それで、2年ぶりに行ってみたら、もう上の方の2割くらいの方は感染もあったし、虚弱もあつたり、施設とかでは起こっていた。たった2年なんです。あきる野はまだ、高齢化率、そこまでいっていませんけど、たった2年の出来事で、そうなることを考えると別にそれはどこでも起こりうる。だからバスがないからダメとか、集まるチャンスがないからダメとか、この時間は、市が予約しているからダメとか、そういう考えではなくて、どういうふうにするのかというのを、この計画に盛り込んでいって、小さなアイデアでも少しでも多くの人を巻き込んでいく、新規の方もそうかもしれないし、1回やめてしまった方が、もう1回やってみるでも良いし、学生の時にバリバリやっている人が、実はできなかったりするんですよ。だからもうちょっとゆるいものでも良いので、できるよとか。それからやるチャンスがあるとかないとかいった時に、指導員の問題だとか、あとはカードの問題ですよ、カードも使えないとか、あるかないかも

知らないとか、そういうことではなくて、それこそ無料の日に、そういうのを見せたら何かいろいろなことが起こるなど。いろいろな意味では、この審議会でも、皆さん方から寄せられていますので、それが、次の何年間かの土台になりますから、もし素案の中に、こういう表現がわかりづらいとか、それから、来年からこういうことができるとか。5年後とか10年後に、繋がりそうだということがあれば、是非そういうことをご意見いただければと。決して単独のマラソン大会を提案するとかそういう趣旨ではないですけれども、そういうことをきっかけにして、何か広げていくようなことがあれば、特に高齢者の問題は、ポイントが低いです。本来は、高齢者が、一番力が入っていていいはずなんですよね。ただ、この計画では、高齢者のポイントが低い、BとかCとか、スポーツではもったいない話なので、こんなに意欲があって、推進委員さんもいて、現役で頑張っているから、だからこの次の10年を考えたら、世代交代を含めてのしくみとか環境作りをやっていかないと、今やってる方がどんどんやなくなる。スポーツなんかそういう目標みたいな、2020で、ちょっと下がりつつありますけど、そうではなくて、常に良くしていく、広げていく感じでいいかと思えます。

(委員) 確かに一般の体育館に高齢者の方が行くとなったら、かなり酷だと思います。しかし、これは視点を変えてみたら、高齢者の年齢は、だいたい70, 80と考えたら、その家族、娘とか息子、嫁がだいたい50歳くらいですよね、まだ車を運転出来る。となると家で、もし同居されている方とかを、まず体育館に呼び込むこと。本人だけが体育館に来てやるというイメージを持つと、足の面やいろいろな面で大変かなと思うかもしれませんが、付き添いがいて、家族の誰かと一緒に行こうじゃないか、嫁でもいい、中高年ですよ。中高年50歳以上ぐらいの娘と、おばあちゃんに行くとか、そういうようなイメージで、まず取組んでみると車を運転出来れば、集まるでしょう。そういうことを考えてあげたならば、家族で一緒にやりましょう。そういうのが広まってくるとおそらく、今の老人会からとか、すごく噂が広まってきますよ。そうすれば誰かの車で一緒に行こうという話になり、誰々の嫁が連れて行くとかになると、すぐに輪が広がってくると思うんです。そのためには、効果をださせてあげるようなノウハウを持っている人の指導に当たるということ、道具をしっかりしなきゃいけない。これがしっかりしていると、絶対これは意欲が高まってくると思う。小さい輪から広げていくだけで、だんだん大きな輪になるんです。最初から大きな輪でなくて、小さいけれども本当に何人かの声で。そういうような取り組みのために、トレーニングルームの中高年向けの時間とかを設定してあげるとか、スポーツカードの高齢者カードも何かうまく工夫してあげて、二人目は減免というようなことをうただけで、かなり変わると思います。足の面でも、確保できるのではないかと思います。以上です。

(会長) BYCの議論の時にコストの話はここではしませんでしたけども、今回久々に提示していただいて、委嘱された時期によっては、資料1というのは初めてご覧になった委員もいらっしゃると思うんですけど。ここに、参加人数という欄がある。Cは我々は議論しませんけれども、70%を目標にして、6割いかなかったという反省を考えると、今回は大きなところでイベントという議論をしたのですが、何人携わったのかということ常意識をして、今、ご指摘のあった小さなところも、もちろん大事ですよ。一人ひとりずつ、ただ1人が1人連れてくる、2人になる。ですから家族という観点であったり、ご近所という観点であったり、あるいは地区ぐるみでとか、あとはよくあるイベントは、日本財団がよくやっているのは、類似した人工規模の自治体で競

う、そういうイベントとかをやっています。ある特定の日に、何人がスポーツに関わるか、みたいなことをやっているイベントもあります。例えばそういうものに、あきる野もチャレンジして、人口8万ぐらいの、別の都市と競ってみる。そういったことも、イベントとして、勝ち負けを決めるのではなくて1つのアイデアとしてあるかもしれない。ですので、この資料1というのが、この審議会では結構大事なよりどころになっていますので、今日、スポレクから、それから、過去の第1期以前の話から、それから第1期、集約して、第2期ということになりましたのでご覧いただきながら、また新しいご意見をいただければと思います。

(委員) 前回、「基本目標5」のスポーツに親しめる場の提供の観点で、スポーツ施設等の管理・整備ということで、言わせてもらったんですけど、非常に前回と比べると、わかりやすくなりましたので、あと、根本的には、計画倒れになると何もならないので、要は財源が伴うと、前から言っていることなので、スポーツ施設の優先順位を、教育委員会としては、あるのかはわかりませんが、老朽化する年月もありますから、どこを一番重点的に整備しなくてはいけないんだ、というところですよ。住民もそういう目で見ていると思うので。是非、教育委員会として持ってもらって、それを、市全体の計画の中に反映していくように努力してもらいたい。でないと、こういうことが必要ですよということだとわかるのですが、これが実際のついていかないと、何もならないので。スポーツを広めるという意味では、場の提供というのは、絶対必要なことなので。その場が失われることによって、コロナじゃないけどできなくなることも有りうるわけですから。その点、是非よろしくお願いします。

(会長) そういう点で、51ページ。ア、する機会の充実の概要、1番上の赤いところですが、検討していきます、という文言があるんですが、今の委員のご発言の趣旨からすると、この表現でよろしいでしょうか。例えばですけど、学校施設の方は、さらに充実を図るのです。それから指定管理の方の取り組みを進めます。それから次のページにいくと「する」機会の充実の中に、ホームページで周知します。ところが、2ヶ所だけ、この表現が強いか弱いかは、今、予算というご指摘があったことに関して、検討していると言われたら、検討しているということになるので、他の委員の方からのご意見でも良いですが。どうでしょうか。このままでよろしいでしょうか。52ページの方の検討していくのは、そうかなということなんですけど、施設のことについては、結局、内容をきちんと理解すれば、全部をやりますとっているわけではなくて、順位を決めて計画を立てますという表現であればいい訳で、検討しなくなりますと、全然動かないというニュアンスが出てくるので。実際、昨年度と今年度をかけて、いくつかの施設について廃止、市民プールの話とか、相撲場の話とか議論してきました。そういう点では、優先順位、やっぱり捨てるものは捨てている、けども残すものは、残すということをやっているんで、そういう点では、検討していると思います。では、もうちょっと前向きに、必要なものを順番を決めて計画的に、この期間中に何を達成するのかというような表現であれば、そういうことを検討するという点では理解できますので。

(委員) 今の目標のスポーツに親しめる場の提供というところで、スポーツ推進課が管理している場所については、網羅されているんですけども、例えばスポーツする場は、外にもあるわけですよ。何をやっているかということに、ウォーキングをやっているとか、散歩をしているとか、色々な場が出てくるんですよ。今、ウォーキングする一番良い場所のあきる野市の河川敷は、もう3年前にズタズタになって、そのままになっている訳ですよ。それから公園に散歩行こうとすれば、草ぼうぼうでとて

も行けない。そういうのもスポーツする人達の場所の提供ということでいえば、非常に重要な場所なんですけれども、スポーツ推進課ということに限っていえば、それは別の部署だから、書けるのか書けないのか、よくわからないのですが、市民のスポーツの裾野を広げるという意味では、スポーツをする場所、特に公園なんか子供たちが遊ぶ最大の場所な訳ですよ。そこが草ぼうぼうで遊べないというような状況を、放置しておいて、子どもは、家の中でしか遊べない、あるいは、学校学童クラブでしか遊べない。地域に帰ってきては、道路は危ないから遊べないし、公園は草ぼうぼうで遊べない。となると、結局、子どもたちの体力が落ちてくるということになると、場の提供のところに、市民全体がスポーツをする場というふうに、もう少し広い範疇で捉えて、ウォーキングロードだとか、散歩をする場所だとか、整備みたいなものを、うまく表現できればいいなという気がします。

(会長) 夜間照明の問題とか、今、歩行、ウォーキングを推奨して歩きたくなくなるとかやっただとしても歩けないとかという。実はそこは今回、事務局をお願いをして、計画の推進のところに、計画の進行管理というところを少し強めていただいたのは、例えば道路は何課になりますか。

(事務局) 管理課ですね

(会長) 管理課はヒアリング対象じゃないですよ。

(事務局) そうです。

(会長) あと、公園は何課ですか。

(事務局) 公園も管理課です。

(会長) 大体、公園の問題とか、その使用時間の予約の問題とか、ハードみたいな話、インフラみたいな話になると、今までは課が違うので済んでいたのですが、今ご指摘の通りで、コロナでできないということが起きたので、できないままにしていたら、できない環境を保持するに、なってしまうので、今後ヒアリングシートの対象も従来のヒアリングシートを見直しして、例えば、川の管理は今はどこですか。

(事務局) 秋川、平井川については、東京都です。

(会長) そうすると市民は、ここから東京都だと区別して歩かないので、草ぼうぼうに見えているところは、差がない訳ですよ。だから、ならば都とやり取りできるかということは、少し別かもしれないけれども、市民目線で言えば、川は好きだし、遊びたいし遊ばせたいということだと思うので、ヒアリングシートをきちんともう一度ここで、今の推進につなげていくような。関係する部署をもう一度洗い出しをして、何を変えていくのか。まちづくり関係で観光課とか入っているんですけど、それはもっと多くするのか。それとも関係がないのか。今日ご指摘ありましたけれども、高齢者の問題も、健康課とか支援課とかいろいろあるけれども、スポーツの観点で何をするのか。むしろ第2期で一番大事なものは、計画推進をしてきたけれども、限界があるところがわかってきたので、我々審議会としては、先ほど検討するというのは、少しこだわって、コメントしたのはそこなんですけれども、検討するでいくのか。実現するために検討するのは違う。そろそろ我々が実現したいことというのは、臆気ながら見え始めてきていて、コロナの後でできないことを経験したから、よりこうしたいというのが見えてきている。ただ70%がやってるだけではなくて、もっと、こうしたいというのがでてきているはずなので、その素案で足された53ページというところは、数値目標にこだわることは継続なんですけれども、具体的に何をするかというのが、実は第1期、何もしていない。我々の責任でもある。審議会で審議をしたけれども、そういう庁内体制も含め、推進課が頑張っていたいただいているんですけど、推進課だけ

でできることはさつき公園とか、道路とか川はできないので、そういったことも、新しい視点で第2期に。環境整備は、国の計画でも起こっていますし、都も当然やらないといけない。我々がアクションすれば、同調していくはずですから。第2期計画には、そういう推進のためのきちんとした枠組みを審議会だけが外から騒いでいるのではなくて、審議会ももちろん汗かきますし、一生懸命アイデアも出します。一緒にイベント、それから事業、様々なことに積極的に関与して、6割に満たなかったという計画を達成するには、もう一段、ギアをあげていく感じの環境整備もひとつ、軸だと思えます。是非、計画推進、よりはっきりするような、細かく書いたところを推進していただければと思います。

- (委員) スポーツをする、まちづくりという中で、ラジオ体操の曲を流して、皆さんが、その音楽が流れた時に、どこにいても、誰もがラジオ体操をやる。あきる野市中に流したら、そしたら皆さんどのくらいの人に参加するのか、そういうのも一つ体を動かす。農作業をしてても、それが鳴ったらそこでラジオ体操を始められるとか、そんなのがあったら良いなと思いました。
- (委員) この前、ふれあいセンターで、NHKでテレビでやっているのかな、ビデオをながしているのか、わからないんですけど。急にその時間になったら、職員の方たちが出てきて、皆さん、何かやっていたから。毎日やっているのかなと思いましたよね。
- (会長) ここ何回か校長先生の出席がかなわないので、学校の話が聞けていないんですけど、おそらく、また次回にそういった話も学校現場と地域と一緒にやっていければ。
- (委員) 学校は、今、ラジオ体操をやっていないですか。違うのをやっていますか。
- (委員) ラジオ体操は、小学校では、ほとんどやっていないのではないかな。
- (委員) 中学校は、体育の授業で体育の先生が、ラジオ体操の試験をしなければいけないということで、中学校は、きちんと教えているようですが、小学校は、教えていないでしょう。
- (委員) いきいき事業の中では、リズム体操を取り入れたりして、「北国の春」に合わせたりして。学校で、ラジオ体操とか、やらないんですかね。
- (委員) 体育の授業の前には、体育の先生が体操とか、体育係がやっているとか、それぞれやっていますが、おそらく、ラジオ体操をそのままやっている事はないと思います。やっている先生もいるかもしれないけれども、私の経験上、ほとんどいなかったですね。
- (委員) 地域で、たとえば福生とか、オリジナルの体操とかを作ったりしているのですよね。市民の皆さんでやりましょう的な。どのくらい広がっているかわからないんですけど。
- (会長) あきる野市はないのですか。
- (事務局) 健康課ではないですかね。
- (委員) 羽村市はありますよ。でも、だんだんやらなくなっちゃた。
- (委員) ラジオ体操は強いのですよ、そういうの。でも学校では、ほとんどやっていないと思います。
- (事務局) あきる野もオリンピックに合わせて、東京都のラジオ体操プロジェクトというのがあったので、その時に市民の各団体の方とか、そういった方に声をおかけして、推進していこうよということで、DVDを作成したりとか。そういったのをホームページで公開したり、そういった取り組みはしていました。
- (委員) していたのに、あまり広まってなかった。
- (事務局) 市役所も朝は、ラジオ体操を毎日行っています。
- (会長) 例えばですけど、今のご意見であれば、あきる野市のオリジナルの体操を作るのが、

目的ではなくて、第2期計画の目玉というのが、はっきりわかるような形があれば、それはイベントなどか、オリジナル体操かわからないですけども、何かそういう第2期はこれを残せたというのが、第3期の時にきちんとわかるようにしておくというのは、目標立てるところですから。それが例えば、きっかけづくりなのか、会場整備なのか、高齢者を巻き込んでいるとか、子供も一緒にとか、家族もとか、わからないですけども、是非、またこういう時間を持てると思いますので、いろいろな意見を出していただいて、実現できるものは、シートの方で評価になるように、実現していきたいと思います。

(委員) 前に見た時に、週、何回以上されている、年齢の割合が出ていて、高齢者の方のパーセンテージが高く出ていますよね。

(事務局) アンケートにお答えいただいている母数も多いですけど、年齢が高くなる方がより実施率が高い。

(委員) 30代、40代、50代は下がりますけど。70代はすごく高い。母数が少ないのかもしれないですけど

(会長) 少なくとも市の職員の方々は年齢問わず、毎日ラジオ体操をやっているのです。それが広がるというのは、それが70%に近づく。それでは素案について、それから前回、第2回から第3回までの間にいただいたご意見について、事務局から、回答していただいた上で修正案ということで、素案が今出されました。基本的には大きなご異議はなかったと思いますので、小さな文言の修正、それから調べていただいて、修正していただく部分、多少残っていると思いますけれども、大幅な変更はなく、これで進めていきたいと思いますので、また、お気づきの点があれば、事務局に直接、お伺いいただいても結構ですので、よろしく願いいたします。以上となります。

4 その他 次回の審議会の日程調整について

5 閉 会 副会長